

④3 都市計画道路 鳴和三日市線 中島大橋架替事業

受賞機関 石川県 県央土木総合事務所

キーワード 橋梁架替による4車線化整備、金沢駅へのエントランス道路、低桁高工法、地域の歴史や文化を後世に伝えていく橋梁

全建賞審査委員会の評価ポイント

中心市街地内での橋梁架替による4車線化整備。橋梁整備において、低桁高工法採用（河川断面確保）やデザイン検討の取組が評価された。

1. はじめに

都市計画道路 鳴和三日市線は、金沢駅を経由して金沢市の南部地域と北部地域を結び、都市内交通を支える幹線道路であり、第一次緊急輸送道路に指定されている。

本路線のうち、浅野川を渡る中島大橋は、架橋から60年以上が経過し老朽化が進行していたことに加え、路線全体が4車線で整備されているなか本橋だけが2車線と狭く、交通のボトルネックとなっており、通勤時間帯における渋滞と無理な車線変更による交通事故が発生していた。

2. 事業の概要

県民の安全・安心の向上と、金沢中心市街地における交通の円滑化を図るため、平成26年度より4車線での架替事業に着手し、令和2年11月に新橋を開通させた。また、新橋前後区間において道路の無電柱化を行うことで、金沢駅から続く無電柱化が延伸され、防災力の向上はもとより、金沢駅へのエントランス道路として良好な沿道景観の形成を図った。

- ・延長：L=280m（うち橋長40.8m）
- ・幅員：W=19.0~20.0m
- ・上部工形式：パイプレストレッシング方式単純I桁橋
- ・下部工形式：逆T式橋台（場所打ち杭基礎）



中島大橋全景（令和4年5月撮影）

3. 事業の成果

新橋は、沿道家屋からの出入りに配慮するため低桁高工法（パイプレストレッシング工法）を採用することで、従来工法（PCポステンスラブ桁橋）に比べて桁高を約8割に抑えた。

また、周辺地域は、藩政期に全国に流通した菅笠の笠市が開かれていたほか、浅野川の舟揚場である堀川揚場があり、賑わいの拠点でもあった。その後、本県の伝統工芸品である金箔の生産拠点として発展するなど、地域固有の歴史や文化の面影が今なお残っている。

これらの特性を橋梁のデザインに取り入れ、地域の歴史や文化を後世に伝えていく橋梁となるよう工夫を図った。具体的には以下のとおりである。

- ①高欄に「金箔」のレリーフを設置
- ②親柱に「川舟」をモチーフとした舟型の橋名板を使用
- ③親柱照明灯に、藩政期に全国に流通した「菅笠」をモチーフとした灯具を使用



高欄に金箔のレリーフを設置

4. おわりに

中島大橋の完成により、安全・安心な通行が確保されることはもとより、駅周辺地域のアクセス向上が図られることにより、金沢駅を発着する物流や観光客の移動を活発化し、県都金沢の更なる発展に貢献するものと考えている。

また、加賀百万石の歴史情緒が感じられるこの橋が、地域のシンボルとして、多くの方々に末永く親しまれることを心より期待している。

賛助会員 (株)ピーエス三菱